

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
① 地域の相談支援を拠点として総合的な相談業務を実施する ②相談員の質の向上 ※	◇相談支援事業所への巡回個別相談 通年 ・ 他事業所の相談支援専門員への支援 ・ 地域課題の確認	P. 29 P. 30	①② ・ いわざき授産所 (7/11, 10/25, 2/1) ・ メロディー相談支援事業所 (7/11, 10/20, 2/1) ・ 相談支援室こぐまさん (7/19, 11/10, 1/31) ・ サンビレッジ障害者支援センター (7/21, 11/20, 3/21) ・ サンプルンド障害者生活支援センター (7/26, 11/8, 1/30) ・ 相談支援事業ハートランド小牧の杜 (8/15, 11/21, 1/30) ・ アザレアフォルテ (8/24, 11/9, 2/5) ・ 地域活動支援センター本庄プラザ (8/28, 11/10, 1/16)	各事業所を巡回し、直接話をする事によって、「相談員同士の関係性が出来て良かった」という意見を頂けた事業所もあったが、「忙しいため、時間が作れない」という事業所もあった。 「緊急対応ですぐにショートステイを利用したいが、受け入れ先がなかなかない」という困りごとがあった。 個別のケースの困りごとや、事業所探しの相談を受け、巡回相談の中で提案できる事があった。	終了・継続・変更 (※)	相談支援事業所連絡会で共有した方が良い事などを聞くことができる。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き	◇学校教育課からの依頼で、市内の小中学校の教員を対象に、福祉サービスについての講話を行った。	P. 29 P. 30	①7月21日開催 【参加者 20名】 ②9月12日開催 【参加者 55名】	①放課後等デイサービスの手続きの流れや、取り組み内容、利用料金などについて説明した。 ②ライフステージに沿った福祉サービスについての講話を行った。 将来に向けた、福祉サービスについての話が聞けて良かったと参加者から声を聞いた。	終了・継続 → 同じ・変更	学校教育課からの依頼で対応した。今回で終了。
	◇小牧市障がい者基幹相談支援センター進捗検討会議 基幹相談支援センター業務の外部チェック機能として主に次のことをおこなう。 ・基幹相談支援センターがおこなった相談支援専門員への支援の評価 ・基幹相談支援センターが関与する困難ケースへの対応の評価 ・その他		①8月29日開催 【参加者 7名】 ②11月29日開催 【参加者 6名】 ③2月8日開催 【参加者 7名】	巡回訪問で聞き取った内容を伝え、主任相談支援専門員や、委託相談支援事業所から助言をいただいたことで、基幹相談支援センターとしての対応の参考になった。	終了・継続 → 同じ・変更	助言をいただくことで、基幹相談支援センターとして、小牧市の相談支援体制整備につなげていく。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
※続き	◇相談支援 専門員 初任者研修受講者 フォローアップ研 修	P. 29 P. 30	12月4日開催 【参加者 3名】	計画作成についての 助言や、小牧市の相 談支援体制について 知っていただくこと ができた。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	相談支援専門員育成につな げていく。
	◇相談支援専門員 現任研修受講者 フォローアップ研 修		①8月8日開催 【参加者 6名】 ②9月11日開催 【参加者 7名】	①ケースについて、 小牧市内の社会資源 等の助言を行い、よ り幅の広い社会資源 を伝えることができ た。 ②小牧市障害者自立 支援協議会の現状を 伝え、各連絡会の取 り組みを知っていた くことができた。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	相談支援専門員育成につな げていく。
①緊急時の受け入れ 体制の整備	◇グループホーム 意見交換会 (2月22日)	P. 27 P. 28	2月22日開催 【参加者 19名】	地域生活支援拠点の 整備について、グ ループホームの空き 部屋が活用をできな いか意見を聞くこと ができた。	終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	地域生活支援拠点としての グループホームの空き部屋 を登録制にしていくな どについて検討する。
①長期入院患者や 長期入所者の退院 ・退所の支援	◇病院・施設との 連携	P. 44	日程調整できず、 実施できなかった。		終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更	相談支援専門員を対象に地 域移行、地域定着の勉強会 を行っていくことで支援に つなげる。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①虐待を未然に防ぐ ②障がい者を地域で孤立させない	◇障害者虐待防止研修会 尾張北部権利擁護センター開催企画の啓発の協力	P. 33	7月13日開催 「虐待防止研修」 【参加者 21名】	「虐待対応の基礎知識の講義の中で、虐待の具体例があり、分かりやすかった」、「障害と高齢の虐待の違いを学ぶことができた」という感想や、グループワークでは、「他職種の方々と話をする機会になり、共有することができた」という感想があった。今後も、虐待を未然に防げるよう、学ぶ場を設けていく必要がある。	終了・継続・変更 (※)	虐待防止に関する取り組みがあれば、その開催の周知を協力する。
①職員が適切な対応を行えるよう研修を行い、資質向上を図る ②障がいを理由とする差別の解消を推進する	◇事業所対象に障害者差別解消法に関する研修	P. 32	12月11日実施 講義：『障害者差別解消法の内容を理解する』 講師：山中和彦氏 【参加者 21名】	障害者差別解消法について改めて学んでいただく機会になった。	終了・継続・変更 (※)	今後も2年に1回行うことで日ごろの支援を振り返っていただく機会にする。

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更